



喉頭がん患者の発声補助器具 購入に助成を!

湖南市公明党議員団 ●くわはらだ 美知子 議員

問 がんのため喉頭を摘出した人が、呼吸・発声に使用するのが「埋込型人工鼻」です。鼻の代わりにするのと同時に、自然な声が出せる「シャント発声」に不可欠な器具です。しかし、消耗品で1〜2日での交換が必要なのですが、保険適用外のため月額2〜3万円かかる費用を全額自己負担しなければなりません。助成制度の導入は。



答 「シャント発声」は、発声練習が少なくても済み、自然な声に近いことで近年注目を集めています。喉頭を摘出された方の社会参加の促進やQOL(生活の質)の向上のため、日常生活用具の対象品目として制度化するよう検討します。

問 「新生児聴覚検査」に助成を

答 生まれつき聴覚に障がいのある赤ちゃんでも、可能な限り早く聴覚訓練を開始するほど、言語能力の発達が得られます。国も推奨する「新生児聴覚検査」にかかる費用の公費負担導入は。

問 県内の分娩を扱う医療機関で、「新生児聴覚検査」を実施しているのは全体の約92%です。本市における平成26年度の検査実施率は、約73%でした。新生児がもれなく検査を受診できるように、県内すべてで検査が可能となれば、検討します。



徘徊高齢者の早期発見! 安全確保を!

湖南市公明党議員団 ●うかい やち子 議員

ふじみ野市のひとり歩き(徘徊)高齢者早期発見ステッカー



問 徘徊高齢者探索への対策は。

答 搜索時の情報伝達をスムーズに行えるよう、平成28年1月から事前登録制度を実施しています。ケアマネジャーへの調査では、気になる方が50人余りで、現在登録者は25人です。平成28年1月から「おかえりネットワーク」を立ち上げましたが、思うように協力者が増えない現状です。

問 GPS発信機での徘徊高齢者などへの取り組みと、費用助成は。

答 GPS発信機を活用した認知症徘徊高齢者の発見に係る経費を家族支援サービス事業

委託として、今議会で補正予算に計上しています。事業費は、1人当たりの初期費用として加入料金5千円、標準充電器2千円と消費税分を助成します。

問 徘徊高齢者等早期発見シール配布事業は。

答 認知症高齢者が市外まで歩いていくケースも多いため、湖南市の市民であることをアピールできるようなシールの配布は、本人の安全や家族の安心につながるので先進事例を含め検討していきます。

市営住宅借上げ制度の早期実現を

答 湖南市市営住宅整備計画による民間住宅の借上げ予定数は、50戸です。家賃補助制度として、期間や対象者要件など、今年度で検討します。